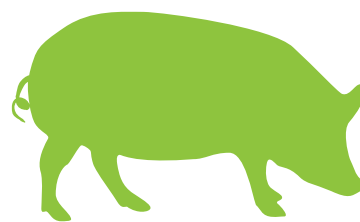


豚肉

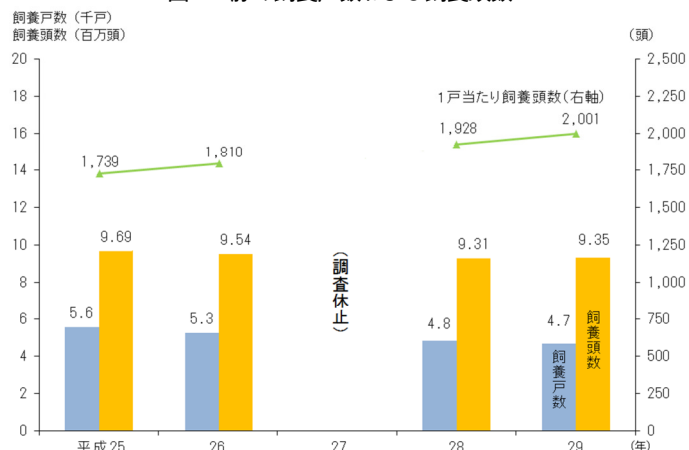


◆飼養動向

29年2月現在の1戸当たり飼養頭数、3.8%増加

豚の飼養戸数は減少傾向で推移しており、平成29年は、4670戸（前年比3.3%減）とやや減少した。飼養頭数は、21年以降減少傾向にあったものの、29年は934万6000頭（同0.4%増）とわずかに増加した。1戸当たり飼養頭数は、前年から73.1頭増加して2001.3頭（同3.8%増）となった。また、子取り用めす豚の1戸当たりの飼養頭数も同6.5頭増の220.9頭となった。依然として小規模生産者を中心に廃業が進み、飼養戸数が減少したものの、飼養規模が拡大したため、1戸当たり飼養頭数は増加し大規模化が進行する傾向が続いている（図1）。

図1 豚の飼養戸数および飼養頭数



資料：農林水産省「畜産統計」

注1：各年2月1日現在。なお、29年は概算値。

注2：平成27年は世界農林業センサスの調査年のためデータなし。

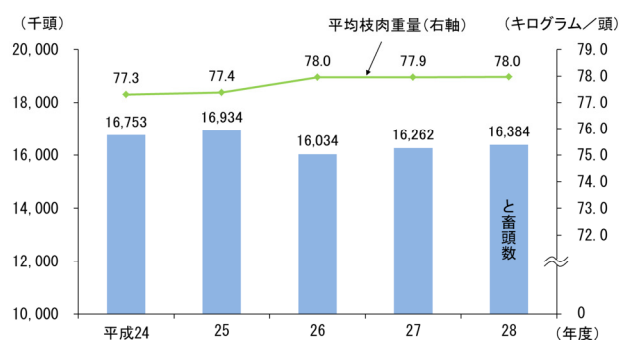
◆生産

28年度の生産量、0.7%増加

豚のと畜頭数は、26年度に発生した豚流行性下痢(以下「PED」という。)の影響から回復して出荷頭数が増加したことから、平成28年度は1638万3832頭（前年度比0.7%増）とわずかに増加した。

また、同年度の1頭当たりの平均枝肉重量は、78.0キログラムと前年度並みとなった（図2）。

図2 豚のと畜頭数および平均枝肉重量



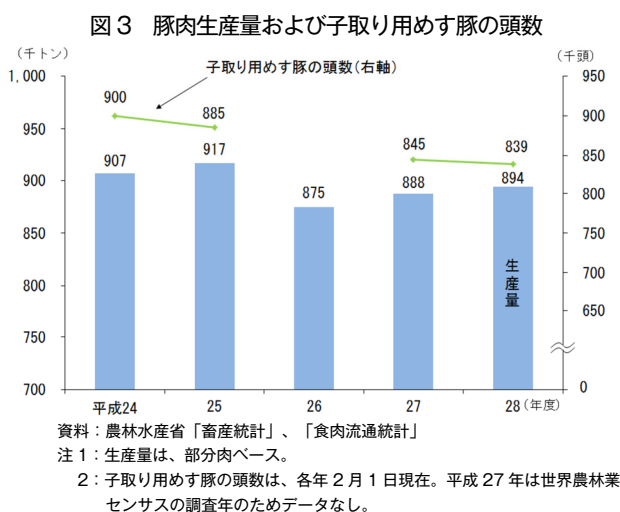
資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：平均枝肉重量は全国平均。

生産量は、長年にわたって大きな変動は見られず、安定的に推移している。26年度は、前年度の猛暑の影響、国内でのPED発生の影響などにより出荷頭数が減少したことから、87万4919トン（同4.6%減）とやや減少した。

27年度は、前年度に発生したPEDの影響から回復し出荷頭数が増加したことから、88万7601トン（同1.4%増）とわずかに増加した。

28年度は、引き続きPEDの影響からの回復などにより、出荷頭数が増加したことから、89万4227トン（同0.7%増）とわずかに増加した（図3）。



◆輸入

28年度の豚肉輸入量、6.2%増加

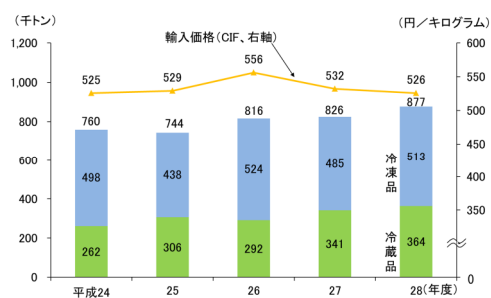
豚肉

豚肉の輸入量について、平成26年度は、現地相場高などから冷蔵品は減少したものの、国内でのPED発生による生産量減少見通しから、冷凍品が大幅に増加した結果、合計で81万6218トン（前年度比9.7%増）とかなりの程度増加した。

27年度は、冷凍品は輸入量が多かった前年度の反動もあり減少したものの、冷蔵品は主要産地である北米でのPEDの沈静化により生産が回復したことなどから大幅に増加した結果、合計では82万5617トン（同1.2%増）とわずかに増加した。

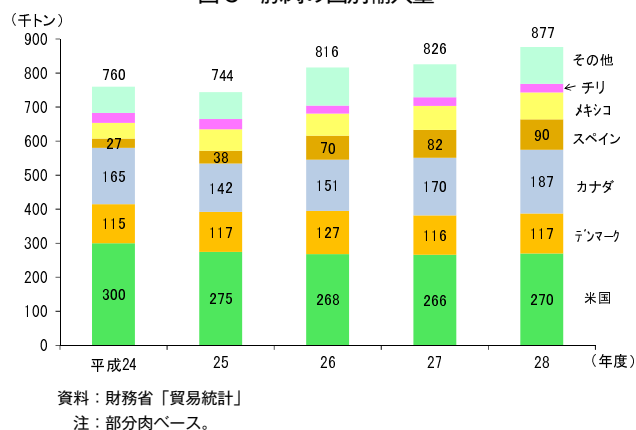
28年度は、冷蔵品は国内の好調な需要に支えられ、また、冷凍品もEUからの輸入量が増加した結果、合計では87万7006トン（同6.2%増）とかなりの程度増加した（図4）。

図4 豚肉の冷蔵品、冷凍品別輸入量および輸入価格



28年度の国別輸入量は、米国産が27万263トン（同1.7%増）と5年ぶりに増加し、カナダ産は18万6628トン（同10.1%増）と3年連続で増加、デンマーク産は11万7384トン（同1.1%増）と増加、スペイン産は8万9712トン（同9.8%増）、メキシコ産は7万8465トン（同11.3%増）といずれも7年連続で増加、チリ産は2万5599トン（同2.2%増）と2年連続で増加となった（図5）。

図5 豚肉の国別輸入量

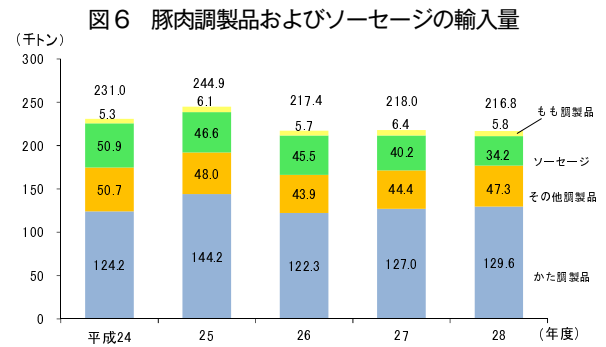


豚肉調製品・ソーセージ

豚肉調製品やソーセージの輸入量について、平成 26 年度は、豚肉の現地相場上昇に伴い冷凍豚肉に需要がシフトし、調製品の輸入量が減少した結果、合計で 21 万 7392 トン（前年度比 11.2%減）とかなり大きく減少した。

27 年度は、世界保健機関（WHO）の食品加工品に係る発がん性リスク報道によりソーセージ需要が減少したものの、豚肉調製品が増加した結果、合計で 21 万 7982 トン（同 0.3%増）と前年度並みとなった。

28 年度は、豚肉調製品が増加したものの、前年度に引き続きソーセージ需要が減少した結果、合計で 21 万 6785 トン（同 0.5%減）とわずかに減少した（図 6）。



資料：財務省「貿易統計」

注 1：もも調製品：160241090（関税率 20%）。

2：かつ頭製品：160242090（関税率 20%）。

3：その他調製品：160249290（関税率 20%）。

4：ソーセージ：160100000（関税率 10%）。

◆消費

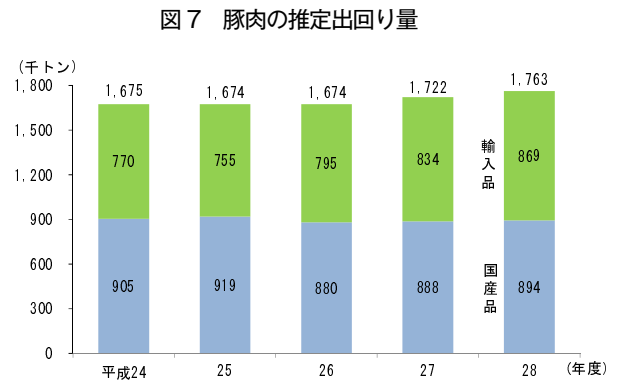
28 年度の推定出回り量は 2.4% 増加、家計消費量は 1.8% 増加

推定出回り量

豚肉の推定出回り量について、平成 26 年度は、国産品は 87 万 9697 トン（前年度比 4.3%減）とやや減少したが、輸入品が 79 万 4724 トン（同 5.3%増）とやや増加し、全体では前年度並みの 167 万 4421 トンとなった。

27 年度は、国産品は 88 万 7866 トン（同 0.9%増）とわずかに増加し、輸入品も 83 万 4116 トン（同 5.0%増）とやや増加した結果、全体でも 172 万 1982 トン（同 2.8%増）とわずかに増加した。

28 年度は、国産品は 89 万 3782 トン（同 0.7%増）とわずかに増加し、輸入品も 86 万 8765 トン（同 4.2%増）とやや増加した結果、全体でも 176 万 2547 トン（同 2.4%増）とわずかに増加した（図 7）。



資料：農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」より農畜産業振興機構で推計

注：部分肉ベース。

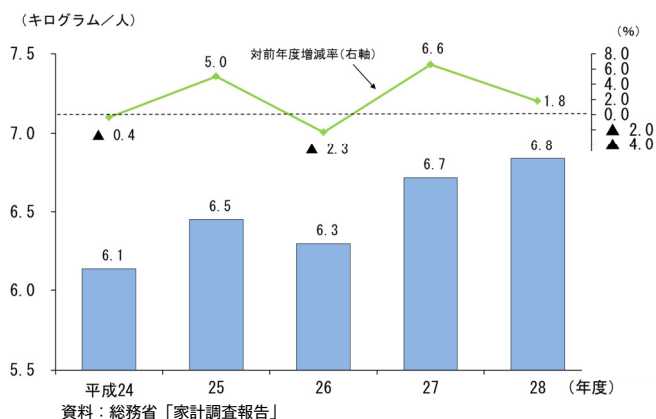
家計消費

年間 1 人当たりの豚肉の家計消費量を見ると、平成 26 年度は相場高による小売価格上昇の影響により、鶏肉への需要シフトがあったとみられ、前年度をわずかに下回る年間 1 人当たり 6.3 キログラム（前年度比 2.3%減）となった。

27 年度は、牛肉価格上昇により家庭での豚肉の需要が高まったことなどから、前年度をかなりの程度上回る同 6.7 キログラム（同 6.6%増）となった。

28 年度は、前年度に引き続き家庭での豚肉需要の高まりを受けて、前年度をわずかに上回る同 6.8 キログラム（同 1.8%増）となった（図 8）。

図 8 豚肉の家計消費量（年間 1 人当たり）



◆在庫

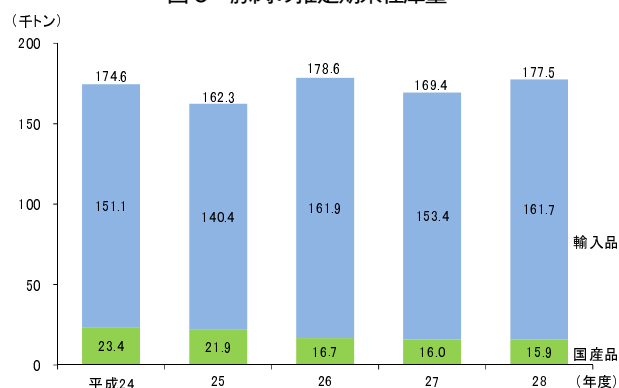
28 年度の推定期末在庫量、4.8%増加

豚肉の推定期末在庫量について、平成 26 年度は P E D の発生により生産量が減少した国産品は、前年度を下回って推移したものの、輸入品は冷凍品輸入量の増加に伴い積み増したことから、17 万 8594 トン（前年度比 10.0%増）とかなりの程度増加した。

27 年度は、国産品、輸入品ともに出回り量の増加に伴い年末まで取り崩しが進み、年明けには積み増したものの、16 万 9380 トン（同 5.2%減）とやや減少した。

28 年度は、国産品は前年度を下回ったものの、輸入量の増加に伴い輸入品が積み増したことから、17 万 7519 トン（同 4.8%増）とやや増加した（図 9）。

図 9 豚肉の推定期末在庫量



資料：農畜産業振興機構調べ

注 1：部分肉ベース。

2：ラウンドの関係で、合計値は必ずしも一致しない。

◆枝肉卸売価格

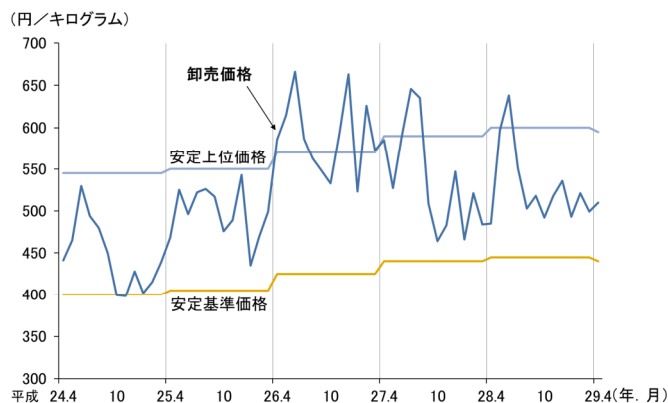
28年度の枝肉卸売価格、前年度をやや下回って推移

豚枝肉卸売価格（東京・省令規格）は、平成26年度は前年度の猛暑やPED発生などにより出荷頭数が減少したことに加え、消費増税の影響もあり、前年度を大幅に上回った。

27年度は、輸入量が増加し、さらに前年度に発生したPEDの影響から回復して出荷頭数が増加したことから、前年度をかなりの程度下回って推移した。

28年度は、輸入量が増加し、引き続き出荷頭数が増加したことから、前年度をやや下回って推移した（図10）。

図10 豚枝肉の卸売価格（東京・省令規格）



資料：農林水産省「食肉流通統計」

注1：省令規格の卸売価格は、極上と上の加重平均。

注2：消費税を含む。税率は平成26年4月1日から8%、それ以前は5%（以下、同じ）。

◆小売価格

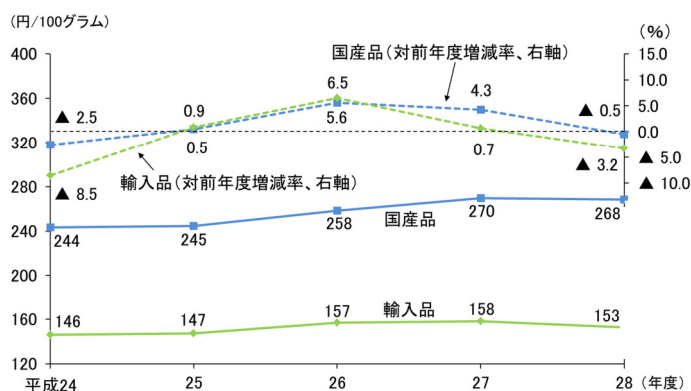
28年度の小売価格、国産品、輸入品ともに値下がり

豚肉の小売価格（ロース）について、平成26年度は、消費増税の影響に加え、国産品は生産量が減少したことから、100グラム当たり258円（前年度比5.6%高）とやや上昇した。また、輸入品も為替の円安傾向や現地相場高が続いたことから、同157円（同6.5%高）と前年度をかなりの程度上回った。

27年度は、国産品は生産量が増加したものの、牛肉の相場高による代替需要などから、同270円（同4.3%高）とやや上昇した。また、輸入品も冷蔵品輸入量が増加したものの、同158円（同0.7%高）とわずかに前年度を上回った。

28年度は、国産品は生産量が増加したことから、同268円（同0.5%安）とわずかに低下した。また、輸入品は冷蔵品輸入量が増加したことから、同153円（同3.2%安）と前年度をやや下回った（図11）。

図11 豚肉の小売価格（ロース）



資料：農畜産業振興機構調べ

注：消費税を含む。